

5. 道路の安全確保の現状と今後の方策、 通学路の安全や市民の安全走行のための整備、 環境面や防災の考え方を加えた整備の仕組み、 市道、農道等の補修整備の現状と今後の方策について

(総務部長、土木部長)

自動車、自転車、歩行者の通行帯が分離された道路が安全な道路ですが、用地取得、建物補償、沿線地権者との合意形成や費用対効果などの様々な課題があります。通学路の歩道整備については、通称水資源道路2000mの内927mが完成し、補助事業で引き続き整備していきます。

主要な道路の除草作業は、年1回、7～9月に業者に委託し実施しています。パトロールで危険箇所を発見した際には、職員またはシルバー人材センターへ委託し対応しています。通学路すべての除草作業を行うのは限界もあるため、学校関係者や地元の協力も必要です。民地からはみ出た木や枝は個人財産のため所有者に連絡し伐採をお願いします。防犯灯が立木の枝で明るさを確保できない場所は、所有者に適正管理をお願いしています。東京電力の送電線に接触している枝などは、所有者の承諾を得て事業者が伐採しています。

ごみの不法投棄は後を絶たない状況で、環境保全課や警察署、地元区長会と連携し、捨てにくい環境づくりを推進しています。

道路の補修は、区長要望、市民の苦情なども年々増加傾向にあり、緊急性などから優先順位を明確にして対応するとともに、職員のパトロールも常時行い早期発見に努めています。



ここは不法投棄も多い

NEWS 11月25日の第4回定例会でも、来栖じょうじは一般質問を行いました。質問項目は以下の通りです。

【第4回定例会一般質問内容】

1. 工業団地立地状況の現状と今後の誘致活動について
2. 職員の適正評価と配置、異動などについて
3. 再生可能エネルギー政策について
4. 米価下落による農家支援策について
5. 人口減少に歯止めをかける政策について
6. 合併特例債事業について
7. 政策推進のため調査研究室の設置について

います。道路の整備は区長要望が基本で、地権者の同意があること、道路整備の必要性が高いことなど勘案し判断しています。交通量の少ない道路は、狭い箇所や急カーブの箇所待避所設ける1.5車線道路を検討しています。

防犯灯の故障対応について、市が管理するのは行政区間の連絡道路部分など、行政区の生活圏外となります。故障の際は、区長から連絡いただくようお願いしていますが、行政区の外部は気づきにくい面もあり、善意の通報に頼っているのが現状です。今後は、防犯灯の管理区分を明確にするとともに、関係団体や関係者の協力を得て点検の機会を確保するなど速やかな対応に努めます。

6. 介護保険利用者と介護施設の整備状況の評価、 介護保険料と施設整備の関連性について

(保健福祉部長)

介護認定者は平成25年度末で、要支援296名、要介護1283名、合計1579名となっています。介護保険サービスの受給者は、居宅介護サービス820名、地域密着型サービス163名、施設介護サービス391名です。給付費の主なものは、要支援認定者(通所介護)で3783万6536円、1089件、1件当たり平均給付費は約3万4700円。要介護認定者(施設サービス)で7億9332万418円、3297件、1件当たり平均給付費は約24万600円です。

平成26年8月1日現在の介護施設整備状況は、特別養護老人ホーム(特養)が5施設、老人保健施設(老健)が1施設、認知症対応型共同介護施設(グループホーム)が10施設です。施設の入所率は、特養で98.4%、老健で92.0%、グループホームで88.9%です。そのうち市民の割合は、特養で61.3%、老健で35.0%、グループホームで73.9%となっています。待機者の状況は、特養で54名、老健で3名、グループホームは1名で合計58名となっています。

介護保険料は3年に一度策定する介護保険事業計画で、介護サービス給付費見込み額に基づき基準の保険料が設定されます。前年実績の、施設入所(特養、老健、グループホーム)の給付費は、合計で16億300万円ほどとして、仮に50床の特別養護老人ホームが出来た場合、満床になった場合でございますが、介護保険料は1人当たり月250円程度上昇すると思われます。

編集後記にかえて

「協同病院のおおつ野移転やつくば市と土浦市の勉強会等から、次世代のためのまちづくりに取り組みたい。今度の合併を見誤っては大変なことになる。」そんな思いから、政治にチャレンジする決意に至り、皆さまのお力で7月に市政の場に送り出させていただきました。かすみがうら市の未来のための教育、50年先を見越したまちづくり、そして、日の当たらない場所に光を当てることの重要性が政治の役割と考え、政治活動に取り組んでいます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

かすみがうら市議会議員 来栖じょうじ



防災訓練に参加

来栖じょうじ 後援会だより

討議資料

<http://www.j-kurusu.com> 2014.12.1

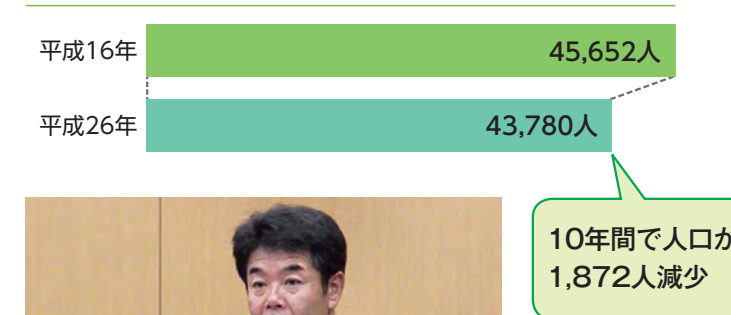
未来へとつながる活気あふれる 街づくりのために

私は市議会議員として、これまで青年団やPTA、公民館活動、そして行政の一員として培ってきた経験を最大限に活かし、住民一人ひとりの皆様が、かすみがうら市を誇りに思えるよう努めていく所存です。

何より市の活性化のためには、人口減少対策が重要だと感じています。合併前の人口は平成16年4月1日現在で45,652人(霞ヶ浦町18,134人千代田町27,518人)でしたが、平成26年4月1日現在では43,780人で1,872人も減少しました。住宅の集中している下稲吉地区、逆西地区以外では10年前の人口から大幅な減少が見られ、たいへん深刻な状況といえます。今こそ英知を結集して、人口減少に対応していかなければなりません。

私たちがのかすみがうら市が、活気にあふれた魅力的な街になるよう、皆様のご意見やご要望をお聞かせいただき、ともに頑張ってみましょう。

●合併後の人口推移



緊張して足がふるえた初質問



新協同病院
完成予想図



建設が進む
新協同病院

第3回定例会 一般質問内容

1. 協同病院へのアクセス道路の整備状況について
2. 少子化対策について
3. まちづくりについて
4. 学校教育について
5. 道路の安全確保について
6. 介護保険について

来栖じょうじ後援会では、市民の皆様のご支援に心より感謝申し上げます。この後援会だよりは、市の現況やまちづくりの方向について定期的にご報告させていただきますので、よろしくお願いします。

魅力ある地域づくり、心豊かな人づくりのために[来栖じょうじ後援会]にご入会ください。

発行

来栖じょうじ後援会

〒300-0136
茨城県かすみがうら市戸崎1110番地
TEL 029-893-3339 FAX 029-893-3337

ホームページ▶



かすみがうら市議会 第3回定例会【平成26年9月10日】

来栖丈治の一般質問について、市からの回答を報告します。

紙面の都合により、質問の詳細及び回答内容につきまして、趣旨が変わらないよう配慮の上省略し、再編集していますのでご了承ください。

1. 協同病院への アクセス道路の整備状況、 国道354号線の 混雑緩和策について

(土木部長、市長公室長)

協同病院は、平成27年10月に開院する予定です。アクセス道路については、土浦市がおおつ野入口から千代田南団地信号までの道路(2800m)を整備する計画です。かすみがうら市は、千代田南団地信号から池田石油まで(310m)、東京製綱南側を県道から常磐線まで(410m)、千代田大橋入口から新治橋方面まで(1600m)、以上について車道幅員6m、片側歩道2.5mの道路を平成29年度までに整備する予定となっています。

交通量の増加が予想される国道354号については、現在、旧北中学校入口から西側500mの歩道を整備中です。土浦市域になりますが、手野から木田余までを4車線化(3980m進捗率88%)するため、木田余跨線橋の設計についてJ Rと協議中ということです。

協同病院のおおつ野移転による利用者の増加や移動手段の変化に対応するため、かすみがうら市では霞ヶ浦広域バスや路線バス、新たなバス運行経路について検討し、乗り合いタクシー運行形態の見直しなども必要と考えています。交通弱者には新たな交通網の検討、救急対応時の搬送ルートの充実も必要であり、茨城県環境科学センター連絡道の全面開通も、その効果を担うルートの一つと考えています。



戸崎から新協同病院へは近いが、道路は行き止まりのまま

将来、ここをつなげられないか



下大津の桜のライトアップ



奉安殿周囲をきれいに

年ぐらいの樹齢と推定することができそうです。

このように私たちの身近なところにも、歴史的な資産がいくつも残されています。地域の宝として、自分たちの手で守り次の世代へと伝えていきたいものです。

3. 市民協働のまちづくりの現状と今後の方向、 若者のまちづくりへの参画状況と今後の方向、 青年組織の組織率の現状と今後の方向、 まちづくりへの市民参画の現状と今後の方向

(市長、市長公室長)

多様化したニーズに対応したまちづくりを推進するために、行政主導だけでは対応しきれない状況にあり、市民主導によるまちづくりの運営体制を構築する必要があります。平成21年7月にまちづくり委員会14名から提言書が提出され、翌22年5月に協働のまちづくりの指針を策定した経過があり、この提言書の内容を現在の情勢に対応させながら推進していく考えです。

福祉、環境の分野では、N P O法人やボランティア団体、企業など様々な団体が特徴を生かし、行政と役割を分担していることから支援策として助成事業を、また担い手の発掘、育成支援を進めるとともにまちづくりに関する基本条例など新たな制度構築に力を入れていきます。

若者の出会いの場については、生活スタイルの多様化もあり出会いの場も様々です。晩婚化や少子化対策として、平成24年度まで結婚支援事業を実施してきましたが高い効果を上げるまでには至っていません。民間業者が質の高い事業ができることや、カップリングパーティなどへ行政が関与することに様々な意見があり、市独自の事業は実施していません。現在は、6年間で1200組の実績がある「いばらき出会いサポートセンター」事業への支援と、市民への情報提供を継続していく考えです。

青年組織は、地域活性化や発展を目的に青年会が地域づくりや仲間づくり、人づくりの活動を展開していましたが、年々減少し現在は休止状態です。市民参画のまちづくりに、若い方々の考えや意見は必要不可欠で、若者をはじめ市民の意見を拝聴しまちづくりを進めているところです。現在は、高校生会の復活に向け市内の高校生に働きかけて、かすみがうら市のお祭りやイベントに協力してもらっていますので、組織を立ち上げ、成人式の実行委員会などへ輪を広げていく考えです。



信号のない水資源道路(霞ヶ浦中通学路)の五差路

4. 統合中学校の現状と今後の対策、 通学路の安全確保の現状と今後の方策、 スクールバスの安全確保と今後の方策、 学習塾の利用状況の現状と今後の方策について

(教育部長)

4月に南中と北中が統合し、生徒数419名、学級数15学級の霞ヶ浦中学校が開校しました。5か月が経過し、生徒間の交流、通学路、スクールバスなど心配された案件も順調に進んでいます。

しかし、一部の生徒ですが授業離脱をはじめとする問題行動があり、保護者から心配する声も上がっています。学校では保護者の協力を得ながら生徒指導の強化を図り、P T Aによるフリー参観等も実施し徐々に落ち着きを取り戻してきました。教育委員会では、7月中旬から学校生活指導員を一部配置するなど、問題の要因をよく精査し、小学校統合も円滑に図れるよう努めていきます。

通学路については、毎年学校で安全点検を実施し危険箇所を把握したうえで、児童生徒に対する安全指導に努め、歩道や信号、横断歩道なども関係機関に随時要望しています。雑草の除草及び道路にはみ出した通行に支障のある枝などは、道路管理者にお願いしています。

スクールバスの運営は、学校、P T A役員、バス利用の保護者で構成するスクールバス調査委員会で、停留所の位置などを協議し、安全利用の指導を行っています。

学習塾の利用状況は、昨年度、学校で小学6年生と中学3年生を対象に実施したアンケートによると、6年生が180名程度で45.6%、中学3年生が220名程度で61.2%となっています。小学校低学年については把握できていませんが、6年生から中学3年生の間では約半数程度が塾に通っていると推定されます。

コラム 「奉安殿と下大津の桜」

下大津保育所の跡地(旧下大津小学校跡地)に、奉安殿と桜の古木があることをご存知でしょうか。奉安殿は戦前の学校で、天皇・皇后両陛下の写真と教育勅語を納めていた建物です。特徴のある様式の頑丈な建物ですが、戦後に奉安殿が廃止されたことから大半が解体されました。別の用途として使われるなど残っているものはわずかで、下大津小の奉安殿もその一つです。また、桜の古木は詳しい資料が残ってはいませんが、根回りが4メートルを超える巨木であることや、明治36年(1903年)7月1日に下大津尋常小学校が創立された跡地であることから、専門家の見立てでは110